



ご挨拶

鎌倉女学院中学校高等学校
教頭 酒主 桂樹

この4月より教頭職を拝命しました。よろしく願い申し上げます。

学院は今年120周年の節目の年です。この歴史は先輩方がその時代毎に知恵を絞り、鎌倉の価値を積み重ねてこられた結果だと思っています。

大野校長が教育目標達成のために取り組んできたのは、「生徒が主体性を発揮し、自身の成長につなげていけるようにする」ことです。

先日、白菊会の生徒たちから「夏休み前に個人の荷物を全て持ち帰らなくてもいいようにしてほしい」という提案がありました。計画的に荷物を持ち帰っても夏休み直前まで授業があるため、最終日の荷物は大きくなってしまいます。それを持ち帰るのは困難です。この提案に教員も真摯に向き合い、長期休暇中に荷物を持ち帰る意義について議論し、この提案を受け入れました。

母校 創立120周年を迎えて

尚綱会会長 梅澤ゆ可里 (高校9回)

令和6年度総会は6月20日(木)113名の出席をいただき無事修めることが出来ました。今年鎌倉は120周年を迎えられます。

明治37年田辺新之助先生がここ鎌倉の地に女学校を開設され令和6年3月までの卒業生は一万四千五百六人となりました。120年の歴史に目を通しておりますと田辺校長のご苦労はいかばかりであったか想像を絶します。幾多の自然災害に見まわれ廃校を決意されたこともありと書かれています。そのたび先生を支えた多くの方々の理解と協力があってこそ鎌倉の歴史が創られたことに卒業生の一人として感動です。又、先生は個人の力により鎌倉の地に女子教育の理想実現のために企画設立されました。鎌倉町に協力を求め設立陳情書を町議会に提出、当時町議員大石平右衛門氏、元明治女学校教頭・星野慎之輔氏の尽力により鎌倉女学

なぜこのような提案が生徒たちから出てきたのでしょうか。昨年度から白菊会の生徒たちは他校の生徒会と交流し、学校生活について意見交換しています。それにより自分の意見に客観性や自信を持つことができるようになりました。大野校長の「生徒指導から生徒サポートへ」という方針が教員のマインドを変化させ、生徒のエネルギーを引き出したことも大きな要因です。

尚綱会の皆様が母校を想い、愛されるのはきつと充実した学校生活を送ったからでしょう。今私たちが取り組んでいることは在校生の学校生活への満足度を高め、鎌倉が母校として永く愛される場所であり続けることを目指し、尚綱会の皆様のような卒業生を増やしていく取り組みです。尚綱会の皆様には今後も引き続き学院へのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

田辺先生と学院の歩み

明治30年 東京開成中学校校長就任
明治36年 第二開成中学校 開校
明治37年10月2日 鎌倉女学校 開校
明治43年1月23日 ポート遭難事件
明治44年 台風上陸 校舎全壊
大正2年 陸奥広吉伯爵 復興にのり出す
大正12年 関東大震災 増築整備された校舎全壊
陸奥伯爵の弟である古河潤吉の遺贈金(雨潤会基金)を借用し危機をのりこえる

昭和9年 教頭の江口ユウに校長を譲り退職
その後漢学者として活躍(号は松坡)
陸奥伯爵設立の「同人会」に協力し鎌倉の史跡名勝保存など鎌倉地域振興のために活躍

昭和19年2月24日 82歳逝去 寿福寺に眠る



総会開催

令和6年6月20日(木)
於鎌倉プリンスホテル

開会の辞 上野 純子(高校33回)
来賓紹介
会長挨拶 梅澤ゆ可里
理事長挨拶 杉山美智子
校長挨拶 大野 明子
事務長挨拶 兜森 博美
教頭挨拶 酒主 桂樹
教務課長挨拶 月原有紀子(高校45回)
議事
令和5年度 事業報告・会計報告
令和5年度 監査報告
令和6年度 事業計画・予算について
校歌斉唱
閉会の辞 長田 貴子(高校33回)
懇親会
BSテレ東
○「T H E 名門校・鎌倉」
○「映像で見る120年の歴史」

